



イボタノキ

1、2022 年度モニタリング報告-2

葦毛湿原ではミカワバイケイソウ、カザグルマ等の春の花の開花が終わり、トキソウ等の初夏の花も終わろうとしています。特にミカワバイケイソウは当たり年で、多くの花が咲き、過去最高になりました。カザグルマは5月上旬頃に満開になると予想していましたが、GW前にピークが来て5月上旬にはほぼ終わりになってしまいました。

1) ミカワバイケイソウ

ミカワバイケイソウは2020年が当たり年で、過去最高の649花が咲きました。しかし、翌年の2021年には42花と極端に減り、2022年には190花まで復活しました。今年の開花数は922花となり、過



ミカワバイケイソウ (2023年4月27日)

去最高を更新しました。しかし、来年は極

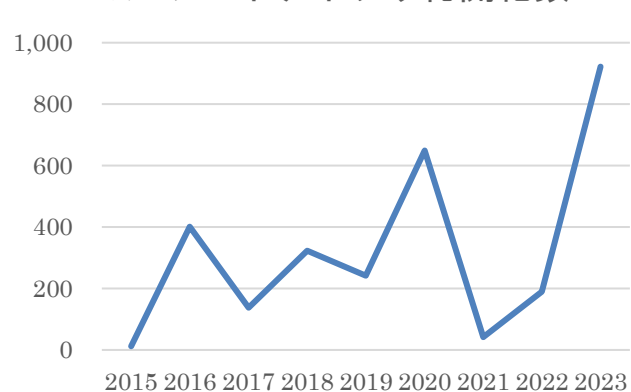
端に減ることになると思われます。ミカワバイケイソウは2015年の計測開始以降、ほぼ隔年で増減を繰り返してきましたが、2020年からは3年周期で大きく増減しているようです。

開花の内訳としては、国有林内は過去最高の600花で2020年より15%程度増えました。しかし、指定地内の開花数は大きく増えており、昨年117花でしたが、今年は過去最高の

ミカワバイケイソウの総開花数と自生茎数

年	国有林内		指定地内		全体	
	総開花数	自生数	総開花数	自生数	総開花数	自生数
2015			12	808	12	808
2016	318		83	758	401	758
2017	86	639	52	611	138	1,250
2018	252	1,400	71	687	323	2,087
2019	116	2,249	126	698	242	2,947
2020	526	2,188	123	858	649	3,046
2021	14	2,701	28	730	42	3,431
2022	73	2,797	117	877	190	3,678
2023	600	2,807	322	773	922	3,580

ミカワバイケイソウ総開花数

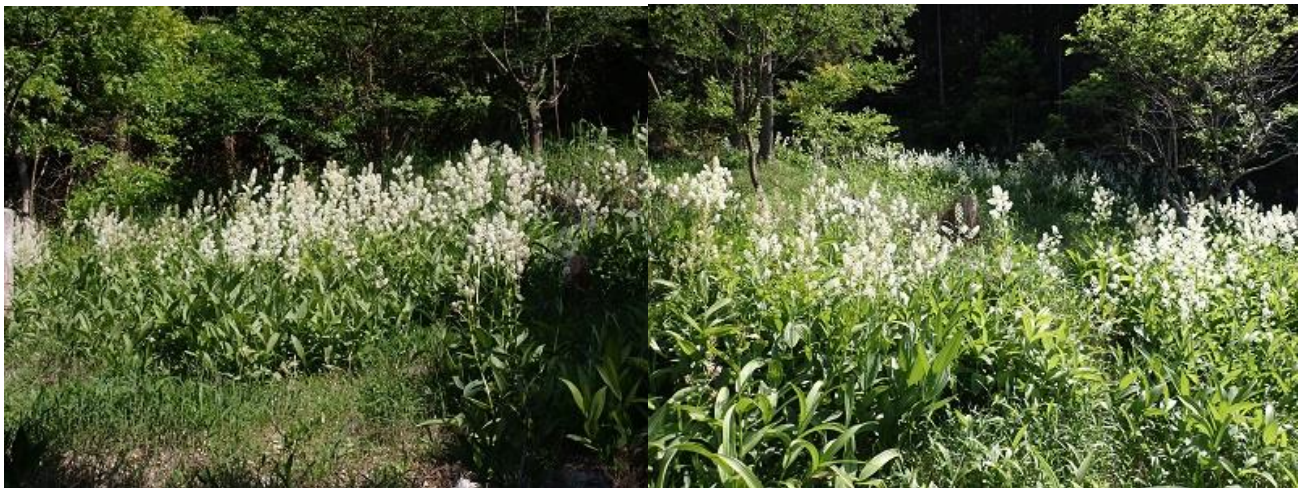
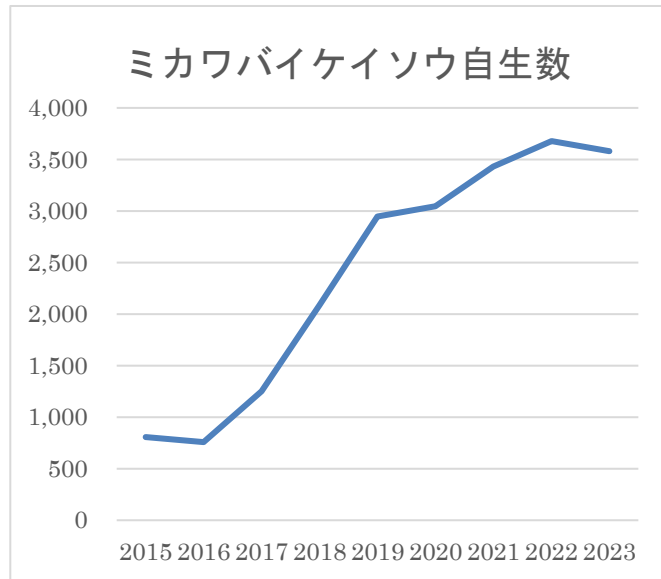


322花で3倍近くになりました。

自生数は株の特定がむづかしいので茎の本数を計測しています。2016年から2019年までは右肩上がりが増えましたが、2020年からは増え方が緩やかになり、今年初めてわずかに減っています。

指定地内は自生数が減っているにもかかわらず、開花数は昨年の3倍近くに増えました。根に栄養を蓄えて開花準備ができた個体が増えたのかもしれませんが。

ミカワバイケイソウは実生で発芽してから開花するまでに長い期間がかかるようで、植生回復作業を行って埋土種子から発芽した個体が多くあり、これから開花する個体が増えていくと予想されます。



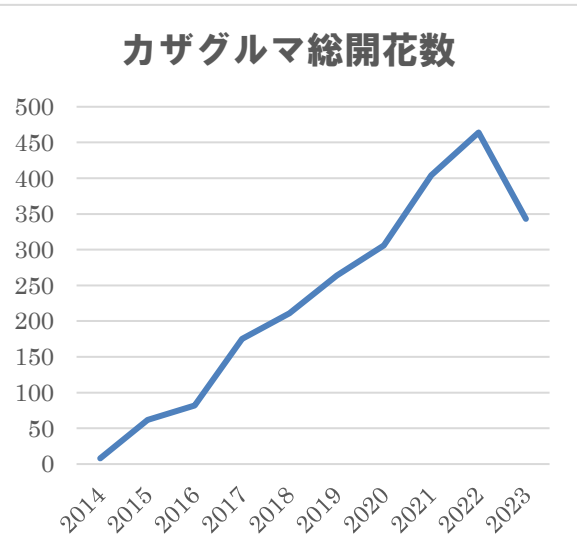
国有林内のミカワバイケイソウ（2023年5月1日）

2) カザグルマ

カザグルマは今年初めて開花数が減少しました。しかし、これは開花数が減ったのではなく、開花数調査のタイミングが合わず、実際の総開花数が分からなくなってしまったからです。

これまで、カザグルマは5月上旬頃に開花のピークがありました。今年もGWまでは順調に開花数が増えており、GW後にピークが来ると予想して、観覧者が多いGW期間

年度	総開花数
2014	8
2015	62
2016	82
2017	175
2018	211
2019	264
2020	306
2021	404
2022	464
2023	343



中は湿地内部に入っての調査を控えていました。しかし、5月8日に調査した時には、多くの花が花弁を散らし、分からなくなっていました。今年の数値は、葦毛湿原調査員の方

が4月24・25日に計測した数値です。この時の調査でも計測できなかったところがあるので、実際の開花数はこれよりも増えるということでした。

カザグルマの総開花数は、2014年からの調査ではきれいな右肩上がりの直線に近い増え方をしており、今年は550花程度を予想していました。今年は計測に失敗して数値が低くなっていますが、予想値近くは咲いていたと思われます。これまでと同様な増加傾向が続くのであれば、来年は650花程度になると予想されます。同じ増加パターンが続くのかを確認するためにも、来年の開花調査はピークのタイミングを外さないように慎重に行いたいと思います。



カザグルマ（2023年5月1日）



カザグルマ拡大（2023年5月1日）

2、2023年のナガバノイシモチソウ-2

豊橋市佐藤町の幸公園北西隅にある愛知県指定天然記念物「豊橋のナガバノイシモチソウ自生地」では、5月28日に今年初の開花を確認しました。5月に開花を確認したのは初めてで、過去最速の開花になりました。開花数は、5月28日は1輪、6月1日は11輪、6月5日は36輪でこれから順調に増えていくと思われます。トウカイコモウセンゴケも開花を始めており、両種はほぼ同じ時期に開花しています。



ナガバノイシモチソウの花（2023年5月29日）

ナガバノイシモチソウ自生地のトウカイコモウセンゴケは、葦毛湿原のものよりかなり小さいですが、葦毛湿原より土壌が乾燥しているのが原因かもしれません。

ナガバノイシモチソウの成長具合は最も東側にある第7地点で顕著に大きくなっていますが、第1～4地点のある西側は成長が遅いようです。東側は川沿いの林が伐採されて明るくなり、日照が大きく改善されました。伐採前は川沿いのフェンスが見えませんでしたでしたが、伐採後はフェンスが見えるようになり、明らかに改善されました（下写真）。

第1地点では少なくなったヒメオトギリ復活のために、昨年の植生回復作業では地表面を削らずにそのままにした実験区を設置しましたが、順調に発芽しています。このまま増えてくれるのか、慎重に観察したいと思います。



トウカイコモウセンゴケ（2023年5月28日）



自生地東側伐採前（2020年5月13日）



自生地東側伐採後（2023年5月31日）